

折戸地区 カルテ

データについて

- ・カルテは住民基本台帳と自治会加入統計を利用しています。
- ・住民基本台帳は各年の3月31日の数値、自治会加入数は各年の4月1日の数値です。
- ・町名は住民基本台帳を採用しているため、自治会名と一部異なる場合があります。

折戸地区の人口特性 令和5年3月 3,606人 1,921世帯 1.88人/世帯

●人口・世帯数の推移



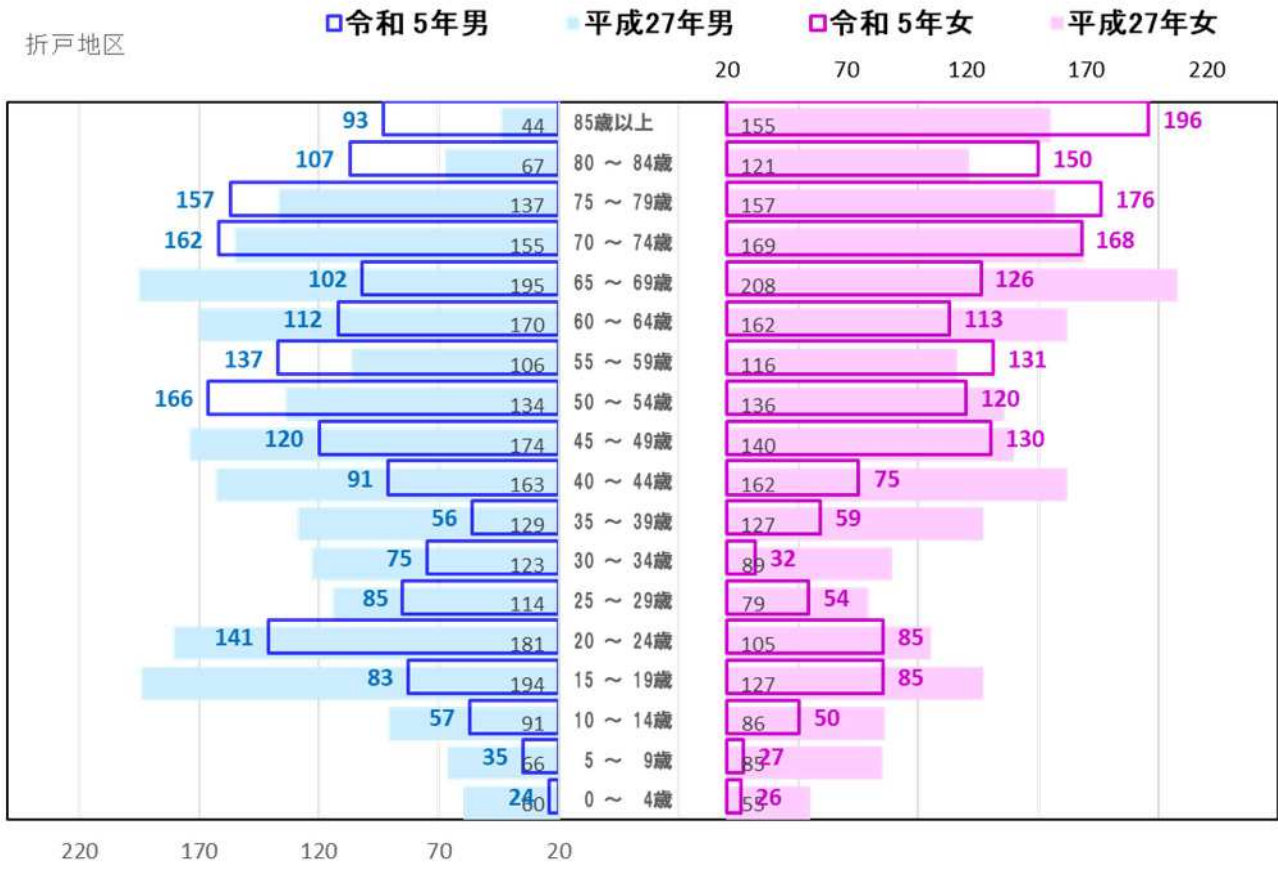
●一世帯当たりの人口推移



●65歳以上の高齢者を支える生産年齢層（15-64歳）

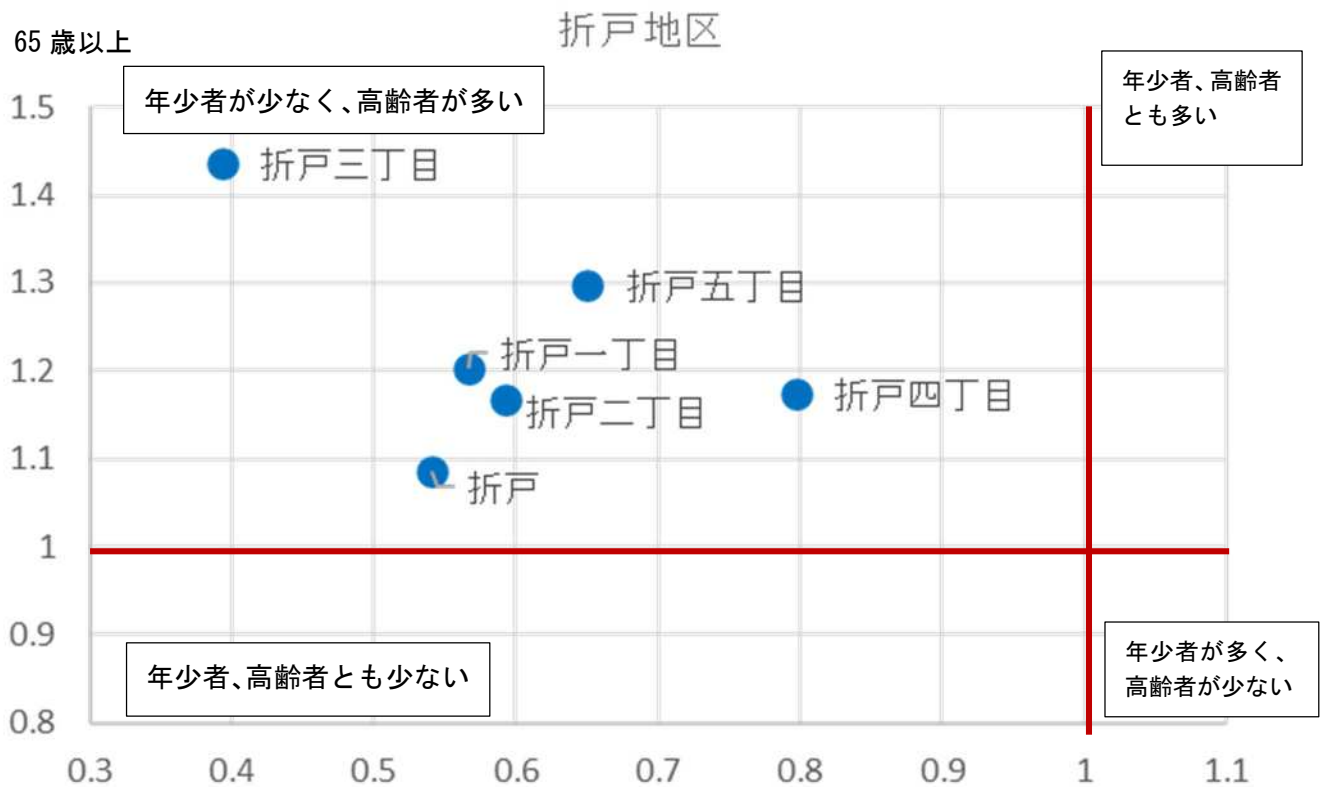
区分	平成27年 (2015年)	令和5年 (2023年)
地区	<p>1.94人</p>	<p>1.36人</p>
静岡市	2.16人	1.88人
清水区	1.98人	1.71人

●人口ピラミッド【平成27年（2015年）と令和5年（2023年）の5歳階級別男女別構成】



●町別の14歳以下と65歳以上の割合分布（清水区の平均値を1とした場合）

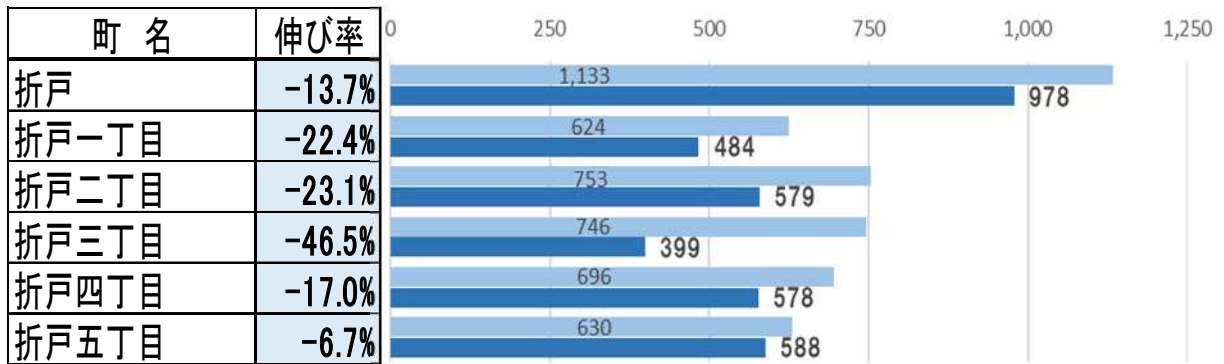
※年少者(14歳以下) 高齢者(65歳以上)



●町別の伸び率と人口推移

【平成 27 年（2015 年）と令和 5 年（2023 年）の比較】

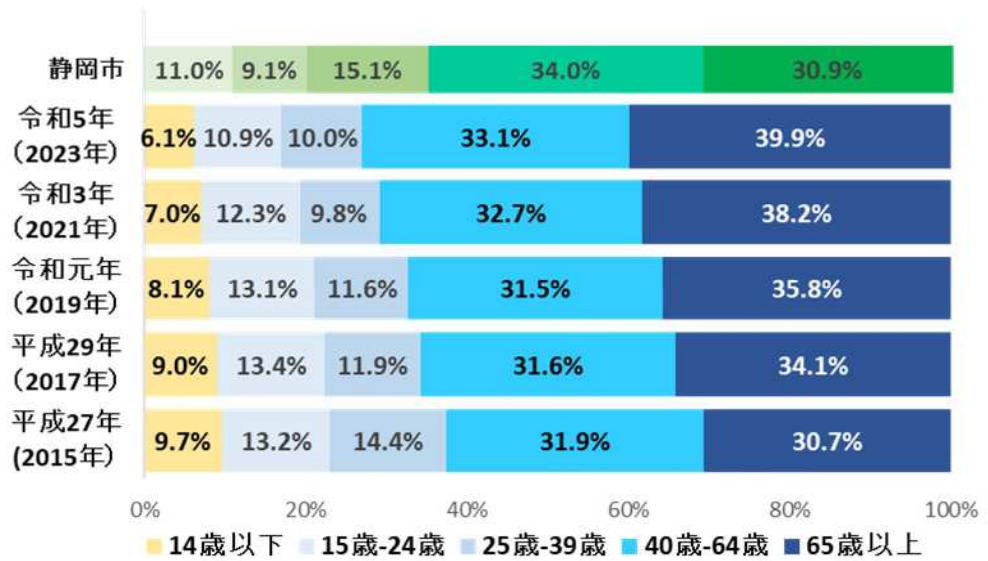
人口推移グラフ（上段平成 27 年 下段令和 5 年）



		人 口	
		平成 27 年 (2015 年)	令和 5 年 (2023 年)
折戸地区	-21.3%	4,582	3,606
静岡市	-4.6%	713,564	680,913

●町別人口区分別割合

・年齢5区分別人口割合の推移



※15-24歳は高校から社会人(大学修士課程含む) 25-39歳は社会人(大学博士課程含む)

・令和5年人口3区分別：

市の割合より

青字 14歳以下の割合が低い場合

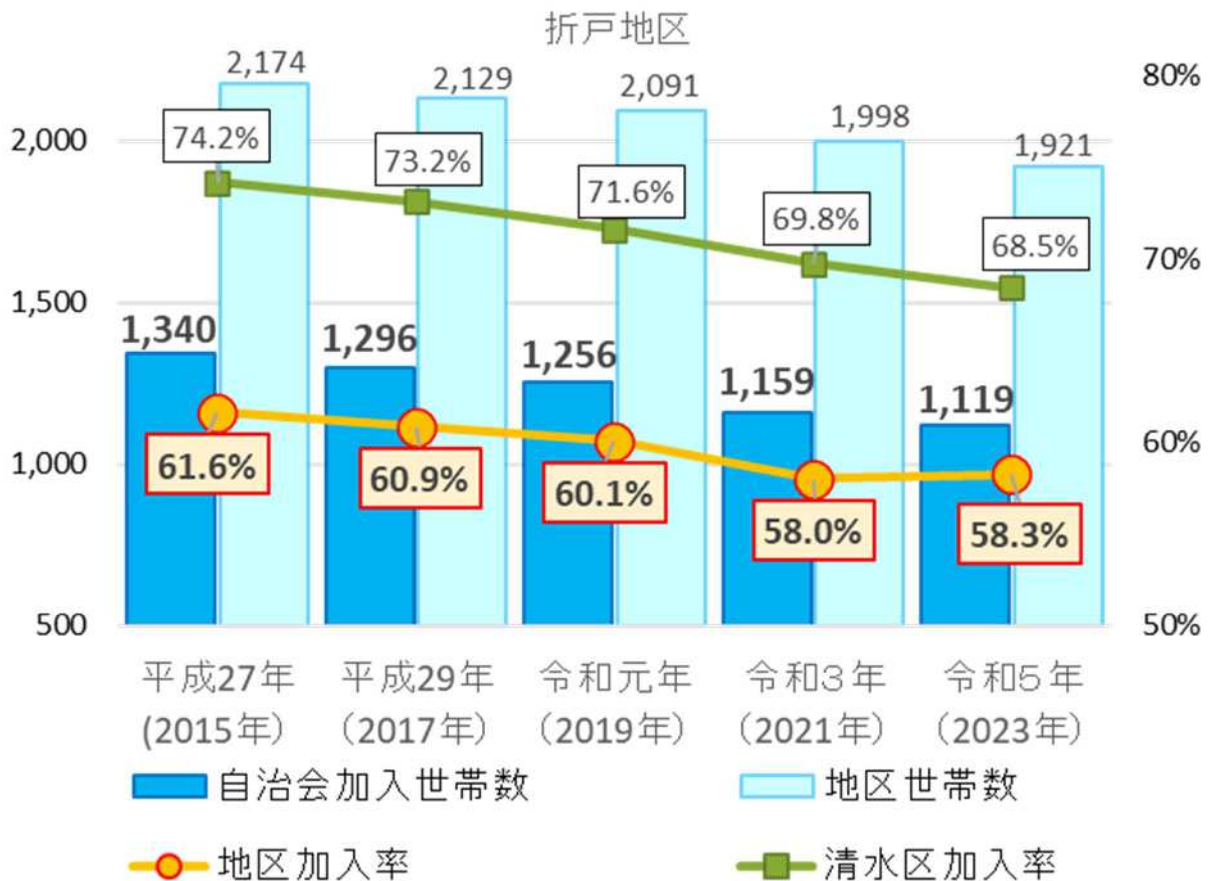
赤字 65歳以上、75歳以上の割合が高い場合

町名	令和5年階級別割合		
	14歳以下	65歳以上	そのうち75歳以上
折戸	5.5%	36.0%	19.7%
折戸一丁目	5.8%	39.9%	23.3%
折戸二丁目	6.0%	38.7%	23.5%
折戸三丁目	4.0%	47.6%	33.8%
折戸四丁目	8.1%	38.9%	24.6%
折戸五丁目	6.6%	43.0%	27.2%
折戸地区	6.1%	39.9%	24.4%
清水区	10.2%	33.2%	18.7%
静岡市	11.0%	30.9%	17.2%

●自治会加入状況

令和5年

加入率	地区	58.3%	加入世帯数	1,119世帯
	清水区	68.5%	住民基本台帳世帯数	1,921世帯



折戸地区コメント

- ・人口と世帯数とも減少傾向にあります。世帯人数が減少していることから、単身世帯や小家族化が進んでいるようです。
- ・人口減少地区は町内全てに見られますが、25歳から39歳の割合は、令和3年から増加傾向にあります。
- ・令和5年の65歳以上を1人支える生産年齢(14歳から65歳)が市の1.9人より少ない1.3人で減少傾向にあり、若い世代が地区や自治会活動等への負担が増えることが見込まれます。
- ・さらに、自治会の加入率は市の値69%より低い58%で、年々減少傾向が見られます。40歳から64歳の自治会活動等で中心的に活躍を期待される層の減少も見られます。

折戸地区

地名のゆかり

古くは「織戸」と書かれ、「織戸」は「織処」を意味し、御穂神社の祭神に「機織り」を奉仕する神を想定し、神社ちかくの地を「織戸」と名付けました。地形がちょうど戸の折れ目のようになっていることによるとか、御穂明神が当地で馬から「下り」たという故事による等の説があります。

明治22年（1889）市町村制施行により三保村に編入され有渡郡三保村大字折戸となり、明治29年（1896）郡制施行により安倍郡三保村折戸、大正13年（1924）清水市折戸となりました。

その後、住居表示により昭和55年（1980）大字折戸の一部が駒越北町に編入し、昭和58年（1983）大字折戸の大部分で「折戸1～5丁目」を設置しました。

高等商船学校

太平洋戦争が激しくなった昭和18年4月、東京・神戸の両高等商船学校を統合して折戸に「清水高等商船学校」が開校しました。生徒は樺太、満州、台湾をはじめ全国各地から3600人が集まりました。敷地は現在の県立南高か三保第二小の辺りまで、およそ22万㎡と広大なもので、そこには生徒、職員などおよそ5000人が住んでいました。

当時の学校生活は厳しく、遠泳で死者が出るほどでしたが、生徒たちは戦争遂行の一端をになおうと、勉強・訓練に励みました。

この高等商船学校は、昭和28年に東京商船大学が復活したため、順次東京へ移りはじめ、昭和35年に移転を完了しました。しかし、かつての生徒たちは清水港に入港するたびに、昔世話になった家を訪れ交流を続けていたそうです。



高等商業学校（商船大学）

御代官道

その昔、県道から三保よりに内海（折戸湾）にむかって「御代官道」がありました。

江戸時代の三保半島は、御穂神社の神官太田氏が本田を治め、新田は江戸幕府直轄の代官領となっていました。新田開発は開墾や干拓などによるものですが、代官が検地のおりに通ったのがこの代官道です。新田開発にまつわる義人藤五郎（慶応3年、1868年没）の話は有名です。



現在の御代官道跡は正式に道として残っていません

瀬織戸神社

この神社は今からおよそ1230年前に奉られた歴史のある社です。一般には「辨天さん」と呼ばれ親しまれておりますが、印度仏教でいう七福神の「辨財天」とは全く別神で、才色に秀で、非常に美しくよく似ているところから、「瀬織津姫」を祭神とする神社をいつの時代から「辨天さん」と呼んでいます。

この神社は旧三保街道に面し、広さは1887㎡、境内に庚申塔がありますが、これは享保17年1月に建立されたもので、庚申の祭神「青面金剛菩薩」がこの神社に合祀されています。

境内松の大樹は約400年を経たといわれ、保存樹林に指定されています。また古くから太鼓が奉納されており、「折戸太鼓保存会」があつて10数曲を代々受けついでいます。

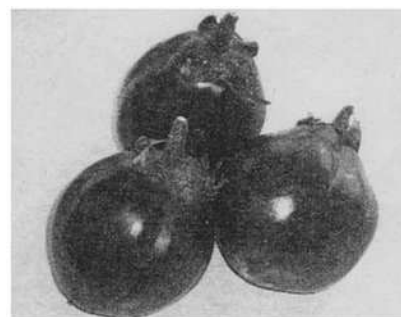
平成元年10月、町内有志により「辨天神輿」が奉納され、秋季例祭の祭典日には町内旧道を練り歩きます。

折戸茄子

気候温暖な折戸。この気候を利用して作られていたのが「折戸茄子」です。古くは徳川家康公にも献上され、家康公の有名な言葉に

「一富士二鷹三茄子」がありますが、この茄子は折戸茄子のことだったようです。

折戸茄子は特別美味しく、形は丸で、直径6センチくらい。1本の苗木からの収穫が少なく、とても貴重な野菜です。静岡市はこの苗を広く栽培し、本市の「ご当地茄子」として消費拡大を目指しています。



折戸茄子

「和解の石」

昔じゃあ、駒越から三保辺りの外海にかけて、たん魚が捕れただに。

網をかけちゃあ魚を捕るだが、かける場所によって魚のとれ具合が大分違った。よく捕れたのは駒越と折戸の境目辺りだったな。そいだんて、網のかけ方でよくもめて、けんかのような騒ぎだっけ。

わしらがよく目印にしたのは、四本松というところでな、大きな松の木が植わっていただよ。この木の下には鳥居の石が埋まっていた、こないわれがあるんだよ。

わしの孫じいさんのころだんて、もう大分昔の話だがね。駒越と折戸の衆が、網のかけ場所であんまりもめるんで、御穂神社が間に入って和解をすただちよう。伊豆の先ちょっと竜爪山を結んだところを境に決めて、神社の鳥居の石を埋め、周りに松を植えて目印にしたというんだな。

この松は、漁をするときにゃあ、いい目印でな、“かかり”の場所を探すのにちょうどよかっただよ。だけえが、わしらが漁をしていたときも、しょっちゅうもめごとはあったっけよ。でも、一度陸に上がれば焼ちゅうを飲んで仲直りしたもんさ。一杯飲みたいために、けんかしてたのかもしれないな。



現在も残る
「和解の石」